

# 第五次総合計画づくりを進めています

Vol. 5

特集最終回となる今回は、8月1日にまちづくり提言市民会議が主催した「まちづくりフォーラム～みんなで目指すまちの姿・一人ひとりができるまちづくりを一緒に考えよう～」の様をお届けします。

まちづくり提言市民会議で検討してきた「みんなで目指すまちの姿」、「まちづくりの目標」の報告や、中学生の考える「わたしたちができるまちづくり」の発表、これからの取り組みなど、活発な意見が交わされました。

企画財政課企画調整係 ☎1101

## 基調講演

「まちづくりにおいて市民が果たす役割」

皇學館大学 齋藤平准教授

「まちづくりとは何か」というところからお話しします。究極のところは「暮らしやすいまちをつくる」ということで、「物価が安い」、「安定した雇用がある」、「基幹産業がある」、「公共施設や交通網が充実している」などがあります。

まちをみんなが満足するレベルにするには、潤沢なお金がないと不可能です。また、行政サービスだけで実現可能かという点、税収の減少、人員不足などもあり、困難な状況です。しかし、市民は行政サービスの充実をさらに求めるので、どうバランスを取っていくか知恵を出し合う必要があります。その解決策の一つが「協働」ということになりま

す。住民ができることは住民に積極的にやってもらう仕組みです。例えば、鳥羽における協働の例として、とばみなとまちづくり市民協議会が検討してきた「鳥羽城三ノ丸広場」の整備があります。市民の意見を取り入れながらみんなで草刈までした結果、素敵な宝物

が出てきた訳です。

協働を始める際に間違つてはならないのが、協働の場は行政への要望の場ではないということ。やるのは行政で市民は要望だけではなく、三ノ丸の例のように市民も一緒に行動します。

先日、地域学のフォーラムがあり、金沢、京都、渋谷、そしてわたしが伊勢の話をして参加しましたが、鳥羽にはこれらのまちに匹敵する地域文化があります。そして、他の地域では、今から地域文化の掘り起こしを始めるなければならないのに、鳥羽ではそれがすでに発見、認識されているという、大変うらやましい状態にあります。

経済的發展で潤うまちもありますが、こういった鳥羽の特色をまちの課題と結び付け、自分たちでできることを進めていくのが協働の第一歩です。鳥羽はこういった文化的風土や自然環境が大変素晴らしいので、これらの特色を生かしていくのが良いと思います。

市民は行政任せ・行政頼りから脱却し、一人ひとりがまちづくりの主役という意識を持つて、まちづくりに参画いただきたいと思っています。



パネルディスカッションの様子



基調講演の様子



基調講演の後、パネルディスカッションのコーディネーターを務めていただいた齋藤平准教授

パネルディスカッション

【テーマ1】

みんなで目指すまちの姿  
「学びたい・働きたい・  
住み続けたいという  
思いが育つまち」

目標その①【人材育成】  
市民の郷土愛を育てよう  
目標その②【結婚・子育て】  
家族や恋人との愛を育てよう  
目標その③【雇用促進】  
若者の地元で活躍したい気持ち  
を育てよう

パネラー



- ①市長
- ②今井緑さん（公募委員）
- ③齋藤翔太さん（鳥羽東中3年）
- ④上村元宏（市教育委員会）

齋藤平コーディネーター（以下「コー」）第5次総合計画では、みんなで目指すまちの姿として、四つのテーマとそ

れぞれの目標を設定しました。一つ目のテーマは子育て、教育、雇用、結婚などの内容です。このテーマについて、

現状と課題を教えてください。上村 鳥羽市では、これからの市を担う若者世代の市外流出がみられ、定着率は6割を切っています。今後は、若者の市外への流出抑制を重視す

べき対策としてとらえ、鳥羽で暮らし、鳥羽で働く若者を増やすための取り組みに力を注いでいく必要があります。

また、こどもの数も半減していますので、子育て支援などの取り組みも継続する必要があります。

コー 続いて、今後10年で学業を終え、社会へと巣立っていく中学生のかたから、発表していただきます。

齋藤 鳥羽を若い力で盛り上げていくためには、大学の建設が必要だと思います。高校卒業時点で多くの若者が減り、そのまま大学近くのまちで働く人が多いようです。卒業して戻ってきて頑張りたい気持ちはあるので、環境を少しずつ変えていければいいです。

また、地元が元気になる方法として、スポーツチームができればと思います。小学校からサッカーをしています。

大きくなったら指導者になって、こどもたちに楽しさを伝えたいと思います。

それと最近「かもめバス」がいいなと思っています。お年寄りのかたがよく利用していますし、僕たちも雨の日などに利用します。

コー まちづくりの目標を達成していくために、市民会議で話してきた具体的な取り組みはどのようなものですか。

今井 市民会議では、目標その①を達成するために、「地域の歴史や文化が面白いと感じ、鳥羽についてもっと知りたくする」仕掛け、「家庭、学校、自治会などとの連携により地域ぐるみで育てる」仕組みづくりを進めていくべきだと話をしてきました。

目標その②を達成するためには、「若者たちの出会いの場や、Uターン・移住のための環境、家庭の憩いの場づくりを進める」、「支えあって悩みを解消し、楽しんで子育てができる環境をつくる」といった取り組みを進めていこうと話をしてきました。子育てでは、親御さん、学校、地域の人たちの見守りがあって、初めて花が開きます。まちづくりも同じで、最後には地域のかかわりが大切です。

次に、目標その③を達成するためには、「若者が地元で就職や起業をするための支援を強める」、「将来性のある企業活動を育てる」といった働きかけを進めていくべきです。市民会議では、地元の若い力を公と民が力を出して支え、新しい芽を育てようという話し合いました。

市長 私も就任以来、子育て支援に力を注いで、少しでも人口が減るのを止めようと頑張っています。

いろいろな案が出ましたが、やはり鳥羽で生活していくために仕事があるということが一番の要素なので、雇用創出を考えていきたいと思えます。また、子育て支援も大切で、せつかく育てたこどもが大学・仕事はよそへ行くで

はいけないと思います。市民に定着してもらうにはどうすればいいか、考えていきたいと思っています。

【テーマ2】

みんなで目指すまちの姿  
「鳥羽ファンと市民が  
幸せを分かち合うまち」

目標その①【観光交流】  
自然の恵みと出会う感動を分かち合おう

目標その②【産業振興】

地域資源の豊かさを分かち合おう  
目標その③【歴史文化】  
地域文化の奥深さを分かち合おう

パネラー



- ①野村将司さん（鳥羽志摩農協）
- ②天野竜太さん（神島中3年）
- ③榎 高広（市農水商工課）

コー 二つ目のテーマは各種産業の振興です。このテーマについて、市の現状と課題からお願います。

榎 基幹産業の観光業では、これまで観光客、宿泊客はおおむね横ばいで推移してきましたが、平成21年は長引く不況や新型インフルエンザの流行などを受けて減少しています。外国人観光客、宿泊客は増加傾向にありましたが、平成21年度は減少に転じています。この分野では、観光基本

計画をつくり、すでに事業を展開しています。

農業については、この15年間で就業者数が半減しています。水産業についても就業者数が減少しており、後継者不足や伊勢湾の環境悪化、魚価の低迷などが課題です。商業についても、商店数、販売額ともに減少傾向となつています。工業については、おおむね横ばいで推移してきましたが、最近閉鎖した工場もあるので安心していただけません。

**天野** 僕は、公共交通機関をもう少し安くすべきだと思います。船やバス・電車など1日中乗り放題の切符を作れば、訪れる観光客はもっと増えると思います。

また、鳥羽にはおいしい食べ物がたくさんあるので、鳥羽でしか食べられないものをもっと増やしていけばいいと思います。

ほかにも、鳥羽で行っている漁業、農業などを体験できる場をつくって、観光客の人に体験してもらったり、鳥羽のみなさんがとった食材などを販売できる市場を整備したり、離島でももっとたくさんイベントを行えば、観光客も増えてくると思います。

**野村** 市民会議では、目標その①を達成するために、「自然環境や海の幸を有効活用」、「魅力ある観光基盤の整備」といった取り組みを進めていくべきだと話し合いました。

また、目標その②を達成するためには、「豊富な海産物をブランド化し、商品価値を高める」、「ファーマーズマーケットなど、農業に触れる機会を増やす」といった取り組みが必要になってきます。わたしは農業中心の生活を送っていますが、市民と行政が手を取り合って見直しを進めていかなければますます衰退してしまおうでしょう。

目標その③を達成するには、「歴史文化を活かしたまちづくりを行う」、「市民も観光客も鳥羽の歴史文化に親しめる機会をつくる」といった取り組みが必要です。

**市長** 来年の4月には佐田浜の港湾センターの機能が新しいターミナルビルに移ることになります。そこで、あのエリアに市民のみなさんや観光客のみなさんが喜んでもらえるものを作っていかなければと思っています。

観光客の動向については、お金を使わない観光客が増えています。入場料無料のところにお客さんが来て、施設に

入場する、宿泊するのにお金がかかる観光地には、人が減ってきているという状況です。このようにいったトレンドに合ったものがないのではないでしょうか。やはり鳥羽でとれた農・水産物を市場として提供していくということが一番可能性として大きいのではないかと思っています。

【テーマ3】

みんなで目指すまちの姿  
「自然と調和した営みが広がるまち」

目標その①【環境保全】地球にやさしい暮らしを広げよう

目標その②【自然共生】自然をまもる気持ちや活動を広げよう

目標その③【生活環境】鳥羽の風土に合った暮らしを広げよう

パネラー



- ① 藤本真理子さん（市廃棄物減量等推進審議会）
- ② 山本実加さん（加茂中3年）
- ③ 村山陽介（市環境課）

**コー** 三つ目のテーマは自然環境の保全や住環境の整備です。このテーマについて、現状と課題からお話しします。

**村山** 鳥羽市は、リアス式海岸や点在する離島が織りなす風光明媚な景観が、観光客だけにでなくわれわれ住む人の心を潤しています。しかし昨今、貴重な財産である自然環境や景観が損なわれてきており、環境負荷の小さい低炭素社会の実現が新たな課題となっています。

これまでの取り組みの成果として、市民意識調査では、「ごみの分別やリサイクル」が、重要度・満足度ともに高い施策として市民のかたに認められています。こういった身近な問題から視野を広げ、地球規模の環境問題についてどこまで取り組んでいくかも課題の一つだと思います。

**山本** 鳥羽には、ほかの場所にはない豊かな自然があふれています。しかし、魚が減ったり、緑が少なくなったり、美観を損ねたりという状況があります。身の回りの環境を

より美しく住みやすいものにするには、市民一人ひとりの環境に対する意識を高めることが必要です。知らず知らずのうちに豊かな自然が破壊されると、自分たちにとっても住みにくくなってしまう。例えば、自分たちで木を植えて実際に自然に触れてもらう取り組みを市全体で行うのはどうでしょうか。親子や友達で気軽に参加し、自然の素晴らしさを感じながら、環境に良いことができることを知ってもらえればと思うのです。

**市民一人ひとりが鳥羽をつくっているのだから、みんなが良いまちにしていきたいと思えます。**

**藤本** 目標を達成するための取り組みとしては、目標その①を達成するために、「低炭素社会をつくり、地球環境を守る」、「自然エネルギーを有効利用する」、「3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進を進め、循環型社会を形成する」といった取り組みを進めるべきだと話しました。「リデュース」というのは「ゴミそのものを出さない、物を買う前に、本当に必要か、代用できないか、長持ちするか」を考えることです。

また目標その②を達成する

ためには、「市全域が国立公園であることを活かし、恵まれた自然環境、景観を守る」、「伊勢湾の貴重な海洋資源を守る」といった取り組みを進めていくべきです。

**目標その③**を達成するためには、「自然環境と共生した住環境づくり」、「安全で快適な道づくり」、「公共交通の利便性を向上」といった取り組みはどうかと話してきました。

**市長** 鳥羽市は志摩市と一緒に新しいゴミ処理場を作ろうとしています。環境パトロールなども行い、市内を綺麗にする努力を市民のみなさんご協力のもと進めています。

また、漁師さんのところへ行くと、海の状況が悪くなつて魚が減ってきた、磯が焼けてきたという話を聞き、農業の方では、獣害が増えて困っているという話を聞きます。

山本さんからは植栽というお話をいただきましたが、今、山は肥大し成長が止まっていると思います。C<sub>60</sub>の吸収量も増えませんが、動物の食べる芽もなくなり、食べ物を求めて人里近くに出てくるようになりまし。以前のようになりまし。以前のようになりまし。以前のようになりまし。

ちんと山に手を入れれば、被害も減り、海も生き返ってくるのではと考えています。

【テーマ4】  
みんなで目指すまちの姿  
「生きがいや安心を  
みんなですくめるまち」

**目標その①**【保健医療】  
みんなで健康な心とからだをつくろう

**目標その②**【福祉】  
みんなで生きがいに満ちた暮らしをつくろう

**目標その③**【安全安心】  
みんなが安心できる生活の場をつくろう



① 押田幸隆さん(消防団副団長)  
② 岡田龍哉さん(鏡浦中3年)  
③ 押川麻奈(市総務課)

**コー** 最後のテーマは、保健、医療、福祉、防災などの安全・安心なまちづくりのテーマです。このテーマについて、現状と課題から願います。押川 福祉面では、高齢者を

はじめ誰もが健康を維持し、暮らし慣れた地域で生きがいを持って生活できる環境づくりを進めています。

医療面では周辺市町との連携による医療体制の確保、救急体制の充実を進めています。

防災面では、市民の防災意識が高まっており、自主防災組織がほとんどの自治会で結成されています。市民や観光客が安全、安心に暮らせるようにハザードマップの作成なども行っています。

**岡田** ぼくの住むまちは、浦村町です。浦村は力キが有名で漁業も盛んです。こどもは小さい頃から手伝いにいき、ほとんどが家を継ぎます。カキ養殖は、僕のまちにとってかけがえのない産業です。

しかし、近いうちに地震がくるといわれています。もし大地震がきたら大変なことになると思います。例えば、津波がきた時のために、地域全員で避難訓練をしたり、家族でも避難場所を決めておくなど、いろいろ工夫できると思います。

安全なまちを作るのはすごく大変なことで、お金をかけることも必要だと思います。

**押田** 目標を達成するための取り組みとしては、**目標その①**を達成するために、「健康に

対する意識を高める」、「診療所の常勤医師の確保、救急搬送体制の維持などの受診体制の整備」といった取り組みについて話してきました。

また、**目標その②**を達成するためには、「支えあいの和を広げ、安心した生活が送れるまちをつくる」、「障がいのある人が、主体的に豊かな生活を送れるまちをつくる」といった取り組みを進めていくべきです。

**目標その③**を達成するためには、「防災体制や復旧体制を確立し、市民生活を守る」、「犯罪や交通事故などから市民を守る」といった取り組みを進めていこうと話しました。

われわれ消防団は、まず自分の身を守り、その後隣近所で助け合うことが大切だと話をしています。保健・医療・福祉についても、「まずは自分の健康を自分で守る」という自助、「地域の体制作り」という共助が重要であり、これらが、キーワードだと思っています。

**市長** 先ほど岡田さんから「お金もかけて」というお話がありました。特に最近の学校の耐震化にお金をかけています。また、医療面では全国的な医師不足の問題がある中

で、診療所にもきちんとお医者さんに来ていただいています。

さらに障がい者のみなさんのケアができるよう、新たに施設を造る考えも持っています。非常に大事なことばかりですので、予算もかけながら、みなさんの提案にしっかりと答えていきたいと思っています。

今後10年間のまちづくりの指針となる「第五次鳥羽市総合計画」の検討状況について、5か月に渡りお知らせしてきました。

特集は最終回となりますが、市では、さらに市民のみなさんのご意見を計画に反映させるため、別途意見募集を行いますので、その際には積極的なご意見をお願いします。

「鳥羽市ホームページ」で最新情報をご覧ください。

総合計画ホームページ

URL <http://www.city.toba.mie.jp/kakuka/kikaku/dai5jikeikaku/sougoukeikaku.htm>

都市マスタープランホームページ

URL <http://www.city.toba.mie.jp/kakuka/machi/tosikeikaku/tosikeikaku.htm>